

# 第24回 親と子の終戦記念 朗読で伝える、戦争と平和

## ガ ザ

パレスチナの人々は今



想像を絶するジェノサイド(大量虐殺)が行なわれ、時々刻々と女性や子どもたちの命が奪われているいま、声を上げなければ…。

舞台監督  
片桐 茂貴

渡部 栄治

藤原 洋子

高橋みえ子

岸本 聡

出演  
川村 成子

脚本  
岸本 聡

演出  
片桐 茂貴

日時 2024年8月18日(日) ①10時30分～ ②14時30分～

(※2回上演、いずれも30分前開場)

場所 釧路市生涯学習センター(釧路市幣舞町4-28)5階ハイビジョンシアター

協力券 1,500円(※大学生・高校生の方は500円、中学生以下の方は無料)

主催 親と子のピースアクション実行委員会(Tel080-5595-7022)

後援 釧路市・釧路市教育委員会

私たちのあゆみ

## 親と子のピースアクション

〈親と子の終戦記念 朗読で伝える戦争と平和〉は、今年で二四回目を迎えます。新型コロナウイルスの世界的流行などがありながら、これまで途切れることなく公演を続けてこられましたのも、平和への熱い思いを寄せて下さる皆様方のご支援があったからこそと心よりお礼申し上げます。

第一回目の公演は、二一世紀を迎えた二〇〇一年。戦争がなくなり、平和な世紀になることを願って『親と子の終戦記念』と銘打った、釧路空襲を題材とした群像劇でした。

一回だけの公演のつもりでしたが、この年にアメリカ同時多発テロ事件（9・11）が起こります。その後二〇〇三年、アメリカがイラクに侵攻し、イラク戦争がはじまりました。日本は、当時の小泉首相がいち早くアメリカ支持を表明し、「イラク特措法」を成立させ、二〇〇四年一月には陸上自衛隊・航空自衛隊を（目的は「非戦闘地域」に限定した）人道的復興支援」として、海外に派遣しました。

このように二一世紀は、わたしたちの願いとは異なり、アメリカの侵攻で始まったイラク戦争による世界秩序の混乱のなかで幕を開

けました。

二〇〇三年（第三回）は、原爆朗読劇『この子たちの夏』を上演しています。

二〇〇八年（第八回）茨木のり子作『りゅりえんれんの物語』上演。中国から道内の炭鉱に強制連行され、のちに脱走、終戦後も逃亡生活を送った、劉連仁さんの物語でした。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災発生。東京電力福島第一原発事故という、都市圏壊滅の恐れさえあった大惨事が起きました。この事故によって私たちは、日本中に五四基もの原発があり、その電力で快適な生活を送っていた事をはじめて認識させられました。

二〇一二年（第二二回）『ノー・モア』は、核の恐ろしさを伝える朗読劇。女優・渡辺えり子さんらでつくる〈非戦を選ぶ演劇人の会〉が、福島第一原発事故で避難した人や電力会社の幹部・有識者の発言をもとに構成し脚本・上演した作品を、北山晶評が再構成したものです。二〇一五年九月十九日、安保関連三法案が強行採決。日本を戦争する国へと変貌させる悪法に対して、国会周辺を包囲した二二万人もの国民をはじめ、日本全国で反対の声が上がりました。

二〇一五年（第一五回）『少年口伝隊（一九四五）』上演。原爆投下あとの広島に街に住む

人々に、広島新聞社が終戦を知らせるために少年口伝隊を組織し、広島をくまなく歩き伝え、被爆した人々の様子を描いたものです。本公演は出演したものにとっても印象深いものとなりました。

二〇一七年（第一七回）『慟哭（どうこく）の島 樺太 一九四五年・夏』上演。一九四五年八月二〇日の終戦、旧ソ連軍の侵攻を受けた樺太で、電話交換手をしていた九人の女性たちの集団自決事件を題材にした朗読劇。北山が多くの文献・資料をもとに脚本を書き上げました。

二〇二二年二月二四日、ロシアがウクライナを侵攻。核抑止論は完全に破たんしましたが、国連の安保理は機能不全におちいったままです。

二〇二二年（第二二回）『こどもにつたえる日本国憲法』上演。一九四七年に施行された日本国憲法を、文部省が『あたらしい憲法のはなし』として、新制中学校一年生の社会科の教科書に採用しました。憲法の戦争放棄をうたったこの教科書は、再軍備を進める日本とアメリカの方針によって一九五一年に使用されなくなりました。「憲法改正」の声が再びざわめいているいま、子どもたちにあらためて日本国憲法の理念を伝えるために、『新しい憲法のはなし』を読み直しました。